



教師を目指す学生による「学生文化」「学校文化」の創造と
新たな「学生と学校のWin-Winの関係」の構築

東浦町SP通信

～東浦町では、学生ボランティアを“職員の仲間”という思いを込めて、
「SP」または「スクールパートナー」と呼んでいます。～

第14号

2023年12月26日

編集 緒方 なな
東浦町教育委員会
SPコーディネーター

「わくわく算数教室」のつながり

12月26日(火)、「2023冬休みわくわく算数教室」の3日目です。今日が5日間の中で参加児童に対してSPさんの人数が最も少なく、昨日に引き続き午前中は1対3、午後はなんと1対4の指導がほとんどになりました。大変な一日でしたが、SPさんのおかげでなんとか乗り切ることができました。ありがとうございました。

大変な日だったにも関わらず、子どもたちは本当に楽しそうに算数を勉強していたように思います。慣れてきたSPさんはプリントの印刷や丸つけをするタイミングで、子どもたちの様子を見て「これ、ちょっと相談してみたら?」「〇〇さんならどうやってやる?」と子ども同士で学び合いができるような声かけもしてくれていました。「SPさんと勉強できる」のも子どもたちにとって大きな魅力ですが、「友達と相談できる」「友達と一緒に取り組める」のも大きな魅力になっています。子ども同士で一生懸命に問題について考えている時の目はとてもキラキラしていました。



今日の司会は、午前が二澤SP、午後が酒井SPでした。この「わくわく算数教室」では、SPさんが運営もしていきます。それが、SPさんにとって大きな学びとなっています。



片葩小学校の先生方も子どもたちの様子を見るために算数教室によく来てくださいます。やっぱり先生が来てくれると子どもたちはとっても嬉しそう！先生と子どもたちとの信頼関係が素敵だなあとと思うSPさんも多いのではないのでしょうか。先生方の子どもたちへの接し方を学べる貴重な機会ですね。



今日、ある児童が算数の問題を解きながらこうつぶやいていました。「家や授業だとあんまりやる気が出ないけど、**わく算(=わくわく算数教室)に来るとなぜかすごいやる気が出るんだよなあ。**」子どもたちからこんな声が出ると、とても嬉しいですね。片葩小の子どもたちにとって、SPさんの存在、わくわく算数教室の存在はとても大きいものになっているんだなあと思いました。



今日も2名のシニアSP（卒業生）が駆けつけてくれました。現役SPにも声をかけて笑顔で話している姿は頼もしくもあり、同じシニアSPとして嬉しくもあります。こうして、先輩が次の後輩へと“学生文化”をつないでくれていることに感謝しています。

